

<<あなたの備蓄 足りませんか?>>

水は災害時でライフラインが止まった時の必需品です。
水分補給飲料だけで1人当たり1日3リットルの水が必要と言われており、
最低3日分として9リットル以上の備蓄が必要になります。



『備蓄が必要とは聞いているけど、どうして?』

災害発生直後は、ライフラインの停止、食料や日用品の購入困難となり、災害支援物資の提供にも1週間程かかる可能性があります。この時、家にある物で1週間どうにか過ごせないと大変です!! とにかくまず「水」です!

『小中学校が避難所(地域防災拠点)なんでしょ?』

『避難所(地域防災拠点)の備蓄をもらえばいいんじゃない??』

圧倒的に足りません。

地域防災拠点備蓄庫にある飲食料は在宅避難の方へは十分に配給できる量はありません!

地域防災拠点備蓄庫・・・災害で在宅生活ができなくなった方が避難してきた場合に優先的に使われます。

黒須田小学校地域防災拠点の場合、近隣のほかの自治会も併せて

約200人が避難することを想定し、数日間ぐらい生活できる最低限のものだけになります。それ以上は保管場所や管理・費用の面から備蓄はできません。

横浜市行政地図情報提供システムに掲載されている「はまピョンマップ」を利用することで、市内の災害時給水所(災害用地下給水タンク、緊急給水栓、配水池、耐震給水栓等)を簡単に確認することができます。

(「はまぴょんマップ」で検索)

地震に強い水道管への交換工事が進められています。

耐震給水栓設置整備が水道局の事業計画に入っております。

しかし、一番簡単に備えるのはご自身で備蓄することです。



横浜市行政地図
情報提供
システム



防災研修を受けたS家の備蓄をご紹介します

家族は大人4人です。飲料水は常時2ℓ×6本入りケースを20箱ほどローリングストックしています(水分補給飲料用20日分)
生活用水用にポリタンクに水があり、風呂水は残しています。



そんなに置く場所ない!ですか?

災害時に皆さんの命をつなぐ水です!まとめておく必要はありません。

この機会に家族1日分を追加してください!

4人家族ならば、2ℓ×6本入りケースを1箱(水分補給飲料用のみの量)です。

既にある備蓄の賞味期限が切れていた場合でも、生活用水としてそのまま備蓄しておいてみてはいかがでしょうか?

家庭備蓄に関する情報は、農林水産省のホームページ「家庭備蓄ポータル」で詳しく紹介されていますので、併せてご参照ください。

家庭備蓄ポータル

検索